

## VI-2-3 一般社団法人日本調理科学会投稿規程及び細則

### 「日本調理科学会誌」論文投稿規程

電子投稿・査読システムを利用するには、あらかじめユーザ登録が必要です。学会ホームページ (<http://www.jscs.ne.jp/>) にアクセスし、「電子投稿・査読システム」のバナーをクリックするか、または、直接 web システム (<https://www.editorialmanager.com/cookeryscience/>) にアクセスし、電子投稿 (Editorial Manager) 「ログイン」画面の「ユーザ登録」をクリックし、画面の指示に従って、まず、ユーザ登録を行ってください。登録が完了したら、ログインに必要なユーザ名およびパスワードが、登録したメールアドレスに送信されます。

#### 1. 投稿論文の種類

- (1) 本誌に掲載する投稿論文は、調理科学に関する報文、ノートおよび資料とする。
- (2) 報文とは、調理科学に関連のある研究で、新しい価値のある結論あるいは事実を含むと認められるものとする。
- (3) ノートとは、報文としては十分な内容を得るに至らないが、新しい事実、実験方法等を見出し、速報的にまとめ発表するに足ると判断されるものとする。
- (4) 資料とは、調査、統計、実験等をその内容とし、新たな資料として調理科学研究のため役立つものとする。

#### 2. 論文の長さ

- (1) 報文および資料は、和文抄録、英文抄録および図表を含めて、刷り上り10ページまで、ノートは6ページまでを原則とする（刷り上り1ページは和文論文約2,500字相当、英文論文約5,000字相当）。
- (2) 和文抄録は400字程度、英文抄録は150語程度とする。抄録は本文の内容を簡潔にまとめたものとする。

#### 3. 倫理指針の遵守

人を対象にした研究は、世界医師会 (World Medical Association) 総会にて承認されたヘルシンキ宣言 (1964年承認、2008年修正) の精神に則り、「疫学研究に関する倫理指針」(平成19年文部科学省・厚生労働省告示第1号) および「臨床研究に関する倫理指針」(平成16年厚生労働省告示第459号) 等を遵守して行われたもので、倫理審査委員会等の審査で承認されたものとする。また、動物を用いた研究についても、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」(平成18年文部科学省告示第71号) 等を遵守して行われた研究でなければならない。

#### 4. 著者

- (1) 正会員および学生会員に限る（連名の場合は筆頭著者および責任著者は、正会員または学生会員でなければならない）。
- (2) 著者の数は、論文の内容に対して妥当であることとする。

#### 5. 投稿手続き

- (1) 投稿規程の細則は、別に定める。投稿原稿は、投稿規程および同細則に則したものとする。
- (2) 投稿は、学会ホームページ (<http://www.jscs.ne.jp/>) にアクセスし、「電子投稿・査読システム」のバナーをクリックするか、または、直接webシステム (<https://www.editorialmanager.com/cookeryscience/>) にアクセスして行う。
- (3) 投稿原稿の受付年月日は、web投稿画面での受付日とする。なお、投稿規程および同細則に著しくはずれている場合は、返却修正を求め、修正後の投稿原稿のweb再投稿画面での受付日を受付年月日とする。

#### 6. 論文査読審査

- (1) 投稿原稿の採否は編集委員会が決定する。
- (2) 編集委員会は査読審査の結果を著者に報告する。著者は査読者の所見に従って原稿を加除修正する。
- (3) 修正原稿の返送期限は特別な事情がない限り、2ヶ月以内とする。
- (4) 査読審査が終了した年月日をもって受理日とし、この時点の原稿を掲載決定論文とする。掲載決定論文には、原則として単純な誤字等の修正を除き追加・変更を行ってはならない。

#### 7. 論文の掲載

論文の掲載は原則として受理日の順による。

#### 8. 著者校正

著者校正は1回行う。この際、印刷上の誤り以外の字句の修正、あるいは掲載決定論文になかった字句の挿入は認めない。

#### 9. 論文掲載料

論文が掲載された場合には、著者負担として下記(1)、(2)、(3)、(4)、(5)の費用を請求する。

- (1) 論文掲載料は6ページまで2万円、6ページを超過した場合、超過分1ページにつき5千円とする。
- (2) 共著者に非会員を含む場合は、一編ごとに非会員1名につき3千円の掲載料を請求する。
- (3) カラー印刷の場合は、1ページあたり3万円を加算請求する。
- (4) この他トレースなど実費がかかる場合がある。
- (5) 別刷は30部までは無料、それ以上の部数は1部100円で著者負担とする。

## 10. 著作権（日本調理科学会著作権規程に基づく）

本学会に投稿される論文等に関する国内外の一切の著作権は採択された最終原稿が一般社団法人日本調理科学会編集委員会に提出された時点から本学会に帰属する。したがって、本学会が必要とする場合は転載し、また外部から引用の申請があったときは、本学会において検討のうえ許可することがある。ただし、著者は研究または教育のため、その他営利を目的とせずに複製する場合は、本学会の許可なしに自著の引用を行うことができる（ただし、ウェブページに掲載する場合は除く）。その際には著作物中に学会の出版物にかかる出典を明記する。また、本学会誌に掲載された論文はJ-STAGEにより公開される。

## 11. その他

教材研究、クッキングルーム、トピックス&オピニオンは依頼原稿を原則とするが、投稿することもできる。投稿規程の細則は別に定める。

本規程の改廃は、委員会の議を経て理事会に報告する。

|    |      |       |        |
|----|------|-------|--------|
| 附則 | 改正施行 | 平成24年 | 12月15日 |
|    | 改正施行 | 平成25年 | 8月22日  |
|    | 改正施行 | 平成26年 | 4月1日   |
|    | 改正施行 | 平成30年 | 2月1日   |
|    | 改正施行 | 令和元年  | 6月2日   |

## （和文投稿規程の細則）

### 1. 執筆形式

- (1)原稿は以下に示すものを作成する。
  - 1)和文抄録および英文抄録
  - 2)本文（引用文献を含む）
  - 3)図（写真を含む）
  - 4)表
- (2)用紙はA4判を使用する（図表も）。本文は縦置き横書きで、上下左右にそれぞれ4cmの余白をとる。1枚あたり26字×32行で印字する。この場合本文の刷り上り1ページは原稿約3枚に相当する。
- (3)本文の下段余白の中央にページ番号を、左または右余白には行数5、10、15、20、25、30の数字を記入する。
- (4)ワード、エクセル、パワーポイント等により原稿を作成し、webシステム上の手順に従ってPDFファイルを作成した後、PDFファイルの内容を確認のうえ、送信して投稿とする。

### 2. 論文標題

- (1)標題は簡潔に内容を具体的に表すようにつける。「…に関する調理科学的研究 (IV), …について」などのように主題と副題を分けることはできるだけ避ける。
- (2)ランニングタイトル（短縮標題）は40字以内につける。なお40字以内であれば標題と同じでよい。
- (3)英文標題は、冠詞・接続詞・前置詞以外の頭文字を大文字とする。

### 3. 本文の書き方

- (1)投稿論文は原則として、緒言、実験方法あるいは調査方法、実験結果あるいは調査結果、考察、要約あるいは結語、謝辞、文献などの区分を設け、見出しをつける。ただし謝辞には見出しをつけない。資料、ノートについては上記の区分に従わなくてもよい。
- (2)見出しは原則として次のようにする。

|      |                |        |
|------|----------------|--------|
| 大見出し | <b>1. 緒言</b>   | （行中央）  |
| 中見出し | <b>(1) 定量法</b> | （行左寄せ） |
| 小見出し | 1) 温度          | （行左寄せ） |

大見出しは**太ゴシック体**、本文は改行とする。中見出しは**太明朝体**、本文は改行とする。小見出しは明朝体、本文は改行とする。さらに小さい見出しの場合は、明朝体、本文は1字空けて続ける。
- (3)論文は原則として当用漢字、新かなづかいとする。単位は原則として国際単位(SI)とする。
- (4)普通に用いられている外国語の術語、物質名などはカタカナとする（例: paper chromatography→ペーパークロマトグラフィ）。カタカナにすることによって意味が不明確になるおそれのあるものはこの限りではない。
- (5)文章中の元素名や化合物名は原則として文部省・日本化学会著「学術用語集化学編」の和名で書

- く。(例：HCOOH はギ酸，Cl<sub>2</sub> は塩素とし，MeOH，HO - □ などはいない)。
- (6) 数字は原則としてアラビア数字とする(例：表 1，図 2，30 mm，4 g，5 時間など)。
- (7) ，。「」( ) およびハイフンなどは全角を使用する。改行の場合は行のはじめを 1 文字分あける。数字およびアルファベットは半角を使用する。
- (8) 文章中の式は  $\frac{a+b}{c+d}$  のように 2 行にするのは避け，(a+b)/(c+d) のようにする。化学構造式の複雑なものには図に準じて扱う。

#### 4. 引用文献の書き方

(1) 本文中において文献の引用を明示する際の表記は，次の④法または⑤法のいずれかとする。

④法：本文中の該当箇所に(著者名，年号)として記す。著者名の記載は，著者が単独の場合には(姓のみ)，2 名の場合には P (姓) と Q (姓)，3 名以上の場合には(筆頭著者名(姓)等)とする。引用文献の欄には，筆頭著者の姓のアルファベット順に記す。その際，同一著者の場合には年号順に，さらに同年に 2 報以上ある場合には年号の後に a，b 等を付して区別する。

⑤法：本文中の該当箇所の右肩に<sup>1)</sup>，<sup>2)</sup>のように通し番号を付す。引用文献の欄には，番号順に記す。

(2) 引用文献は，本文の最後に以下のようにまとめて記す。

1) 雑誌の場合：〈著者名全員を，で区切る〉〈西暦発行年(XXXX)〉，〈論文タイトル〉，〈雑誌名(英文の場合はイタリック体)〉，〈巻(太字)〉，〈引用開始頁 - 終了頁 000 - 000〉

なお，和文誌の場合には，雑誌名は原則として省略せずに記載する。ただし，略誌名を制定している学会誌については，略誌名を使用してもよい。英文誌の場合には，Chem. Abs. による略誌名を使用する。日本調理科学誌に掲載されている英文論文を引用する場合は，雑誌名を省略せずにローマ字綴りで示し，( ) に雑誌英名の略誌名として *J. Cookery Sci. Jpn.* を記す。

2) 単行本の場合：〈著者名全員を，で区切る〉〈西暦発行年(XXXX)〉，〈章のタイトル〉，〈「書名」(英文の場合はイタリック体)〉，〈編集者名〉，〈発行所〉，〈発行地〉，〈引用開始頁 - 終了頁 pp. 000 - 000〉

3) 特許の場合：〈特許権者または出願者名〉〈登録または公開年月日(XXXX/XX/XX)〉，〈題名〉，〈特許番号または公開番号〉

4) オンライン文献の場合：〈著者名〉〈更新年月日(XXXX/XX/XX)〉，〈ウェブサイトの題名〉，〈ウェブ

サイトのアドレス〉，〈閲覧年月日(XXXX/XX/XX)〉ただし，更新年月日は必須項目ではないが，画面に表示されている場合はなるべく記述すること。

#### 文献記載例

##### ④法による場合

新井映子(2011)，米の消費拡大に向けた米・米粉の新たな加工技術の動向，日本食生活学会誌，**22**，207-212

Han, B. Z., Rombouts, F. M. and Nout, M. J. R. (2003a), Review: sufu - a Chinese fermented soybean food, *Inter. J. Food Microb.*, **65**, 1-10

Han, B. Z., Wang, J. H., Rombouts, F. M. and Nout, M. J. R. (2003b), Effect of NaCl on textural changes and protein and lipid degradation during the ripening stage of sufu, a Chinese fermented soybean food, *J. Sci. Food Agric.*, **83**, 899-904

Ohishi, K. and Shibukawa, S. (2010), Investigation of the use of superheated steam with a household oven during the baking of sponge cake, *Nihon Chourikagaku Kaishi (J. Cookery Sci. Jpn.)*, **43**, 286-293

消費者庁(2012/10/9)，食品と放射性物質をめぐる最近の状況について，<http://www.caa.go.jp/jisin/index.html>，(2012/10/25)

高橋浩子，行政祐子，岸本三香子，田中敬子(2012)，中学生男子の咬合力に影響する因子の検討，日本家政学会誌，**63**，691-698

##### ⑤法による場合

1) 松元文子(1988)，「食べ物と水」，家政教育社，東京，pp. 78-80

2) 武田珠美，香西みどり，福田靖子，畑江敬子(2005)，すりゴマの物性に及ぼす加水量の影響，日本調理科学会誌，**38**，226-230

3) 杉田浩一(1996)，日本の菓子100年，「食の文化フォーラム 日本の食・100年〈のむ〉」，熊倉功夫，石毛直道編，ドメス出版，東京，pp. 109-111，pp. 115-119

4) Han, B. Z., Rombouts, F. M. and Nout, M. J. R. (2003), Review: sufu - a Chinese fermented soybean food, *Inter. J. Food Microb.*, **65**, 1-10

5) 小竹佐知子(2012/8/17)，咀嚼模擬装置，特許第5062590号

6) 文部科学省(2012/9/5)，子ども安全対策支援室の設置等，[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shienshitsu/1325002.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shienshitsu/1325002.htm)，(2012/10/25)

#### 5. 図および表

(1) 図(写真を含む)と表は分け，それぞれを 1 ファイルになるべくつめて作成するのが望ましい。ファイル名には，半角英数を用いることが望ましい。

(2) 図の場合は図の下に，表の場合は表の上にタイトルを付す。図(Fig.)あるいは表(Table)のタイトルを英文で書く場合には，簡潔に，内容を総括的

に表現したものにする。和文論文の場合でもタイトル・説明等は英文の表記が望ましい。

- (3) 特に必要でない限り、同一データを図、表で重複させない。
- (4) 本文中の欄外に図・表の挿入箇所を明示する。
- (5) 図は白黒を原則とする。サイズは仕上がり原寸で、片段に収める場合は横8cm以内、両段にまたがる場合は横16cm以内とする。カラー印刷が必要な場合は、その旨を明記する。
- (6) 写真は白黒写真を用いる。顕微鏡写真などの倍率は写真の一部に縮尺で明示する。カラー印刷が必要な場合は、その旨を明記し、費用は実費とする。
- (7) 図および写真について、著者が希望した場合もしくは編集委員会が掲載上不適当と認めた場合には、印刷所においてトレース等を行う。費用は実費とする。複雑な化学構造式などもこれに準ずる。

#### 付則

1. 訂正原稿が期限内に編集委員会に到着しない場合、あるいは著者が査読者の指摘以外に著しく内容を変更した場合に、返送原稿の受領日をもって新しい受付日とすることがある。
2. 初校は原則として著者校正とする。校正に際して、ミスプリント以外の訂正、変更は認めない。
3. 提出された原稿・写真等は返却しない。
4. 教材研究、クッキングルーム、トピックス&オピニオンは、依頼原稿を原則とするが、投稿することもできる。特別枠として編集委員会が掲載を認めたものは別に定める。投稿の場合は、以下に従う。
  - (1) 教材研究は、具体的な実践例や活動報告など、教育機関などで取り上げる教材として参考になる内容を紹介する。クッキングルームは、各地域の食材、料理、調理方法などについて、食生活の特徴などと関連させて紹介する。トピックス&オピニオンは、調理科学的視点から見た時事問題や提言などを紹介する。
  - (2) 投稿者数は原則2名以内とし、正会員および学生会員に限る。
  - (3) 原稿の長さはいずれの場合も原則として4頁以内とする。
  - (4) 掲載料 15,000円
  - (5) 図、表、引用文献は投稿論文に準ずる。

#### (英文投稿規程の細則)

##### 1. 執筆形式

- (1) 原稿は以下に示すものを作成する。
  - 1) 和文抄録および英文抄録
  - 2) 本文(引用文献を含む)
  - 3) 図(写真を含む)
  - 4) 表
- (2) 用紙はA4判を使用する(図表も)。本文は縦置き横書きで上下左右にそれぞれ4cmの余白を取る。1枚あたり60ストローク28行を標準とする。フォントサイズ12ポイントで印字し、各行は行頭をそろえる。字体はTimes New Romanが望ましい。この場合、本文の刷り上り1ページは、原稿約3枚に相当する。
- (3) 本文の下段余白の中央にページ番号を、左または右余白には行数5, 10, 15, 20, 25の数字を記入する。
- (4) ワード、エクセル、パワーポイント等により原稿を作成し、webシステム上の手順に従ってPDFファイルを作成した後、PDFファイルの内容を確認のうえ、送信して投稿とする。


##### 2. 論文標題

- (1) 標題は簡潔に内容を具体的に表すようにつける。
- (2) ランニングタイトル(短縮標題)は70字以内(スペースを含む)につける。なお、70字以内であれば標題と同じでよい。
- (3) 英文標題は、冠詞・接続詞・前置詞以外の頭文字を大文字とする。

##### 3. 本文の書き方

- (1) 投稿論文は原則として、**INTRODUCTION, MATERIALS and METHODS, RESULTS (RESULTS and DISCUSSION**としてもよい)、**DISCUSSION, CONCLUSION, ACKNOWLEDGEMENT, REFERENCES**などの区分を設けて見出しを行の中央に記載する。ただし謝辞には見出しをつけない。資料、ノートについては上記の区分に従わなくてもよい。
- (2) 見出しは原則として次のようにする。

|      |                           |
|------|---------------------------|
| 大見出し | <b>INTRODUCTION</b> (行中央) |
| 中見出し | <b>Assay</b> (行左寄せ)       |
| 小見出し | 1. Temperature (行左寄せ)     |

大見出しは**太ゴシック体**、本文は改行とする。中見出しは**太Times New Roman**、本文は改行とする。小見出しはTimes New Roman、本文は改行とする。さらに小さい見出しはTimes New Roman、本文は5文字分空けて続ける。
- (3) 単位は原則として国際単位(SI)とする。
- (4) 文章中の元素名や化合物名は原則として文部省・日本化学会著「学術用語集化学編」の英名で書く。(例: HCOOHはformic acid, Cl<sub>2</sub>はdichlorineとし、MeOH, HO-などは用いない。)
- (5) 数字は原則としてアラビア数字とする(例: Table 1, Fig.2, 30mm, 4gなど)。
- (6) 右揃えは行なわない。

(7) 論文の書き出しや改行の時は5文字分下げる。

(8) 文章中の数式は  $\frac{a+b}{c+d}$  のように2行にするのは避け、 $(a+b)/(c+d)$  のようにする。化学構造式の複雑なものは図に準じて扱う。

#### 4. 引用文献の書き方

(1) 本文中の引用文献の書き方は次のとおりとする。引用文献の著者名と年代を ( ) に入れる。著者名は姓のみとし、連名の場合2名まではそのまま記し、3名以上の場合筆頭者のみ記す。同年に2報以上ある場合はa, b...と表記する。引用文献の欄には筆頭著者の姓のアルファベット順に記す。

(2) 引用文献は本文の最後に下記のようにまとめて記す。

1) 雑誌の場合：〈著者名全員を、で区切る〉〈西暦発行年 (XXXX) 〉, 〈論文タイトル〉, 〈雑誌名 (イタリック体) 〉, 〈巻 (太字) 〉, 〈引用開始頁 - 終了頁000 - 000〉 英文誌名はChem. Abs. に準拠した略称で示す。  
(<http://cassi.cas.org/search.jsp>)

2) 単行本の場合：〈著者名全員を、で区切る〉〈西暦発行年 (XXXX) 〉, 〈章のタイトル〉, 〈" 書名 (イタリック体) " 〉, 〈編集者名〉, 〈発行所〉, 〈発行地〉, 〈引用開始頁 - 終了頁pp. 000 - 000〉

3) 特許の場合：〈特許権者または出願者名〉〈登録または公開年月日 (XXXX/XX/XX) 〉, 〈題名〉, 〈特許番号または公開番号〉

4) オンライン文献の場合：〈著者名〉〈更新年月日 (XXXX/XX/XX) 〉, 〈ウェブサイトの題名〉, 〈ウェブサイトのアドレス〉, 〈閲覧年月日 (XXXX/XX/XX) 〉 ただし、更新年月日は必須項目ではないが、画面に表示されている場合はなるべく記述すること。

(3) 引用文献が日本語で書かれている場合には、タイトルの後に (in Japanese) を入れる。和文誌名は省略せずにイタリック体のローマ字綴りで示し、( ) に雑誌英名の略誌名を入れる。

#### 文献記載例

Akuzawa, S., Sawayama, S. and Kawabata, A. (1997), Thermal Properties of corn amylase incorporating or with added free fatty acid, *Biosci. Biotech. Biochem.*, **61**, 487-490

Davidson, P. (2008/5/28), Artificial throat, EP1639364B1

Matsumoto, F. (1988), "Tabemono to Mizu" (in Japanese), Kaseikyoikusha, Tokyo, pp. 78-80

Ohishi, K. and Shibukawa, S. (2010), Investigation of the use of superheated steam with a household oven during the baking of sponge cake, *Nihon Chourikagaku Kaishi (J. Cookery Sci. Jpn.)*, **43**, 286-293

Tsuji, M. and Manabe, M. (2014), Distribution of Kanazawa's good luck sweets in Ishikawa prefecture (in Japanese), *Nihon Chourikagaku Kaishi (J. Cookery Sci. Jpn.)*, **47**, 171-182

U.S. Food and Drug Administration (2012/10/10),

Enforcement reports, <http://www.fda.gov/Safety/Recalls/EnforcementReports/default.htm>, (2012/10/25)

Voragen, A., Pilnik, W., Thibault, J., Axelos, M. and Renard, C. (1995), Pectins, "Food Poly- saccharides and their Applications", Stephan, A. M., Ed., Marcel Decker, New York, pp. 287-339

#### 5. 図および表

(1) 図 (写真を含む) と表は分け、それぞれを1ファイルになるべくつめ作成するのが望ましい。ファイル名には、半角英数を用いることが望ましい。

(2) 図の場合は図の下に、表の場合は表の上にタイトルを付す。図 (Fig.) あるいは表 (Table) のタイトルは、簡潔に、内容を総括的に表現したものにす。

(3) 特に必要でない限り、同一データを図、表で重複させない。

(4) 本文中の欄外に図・表の挿入箇所を明示する。

(5) 図は白黒を原則とする。サイズは仕上がり原寸で、片段に収める場合は横8cm以内、両段にまたがる場合は横16cm以内とする。カラー印刷が必要な場合は、その旨を明記する。

(6) 写真は白黒写真を用いる。顕微鏡写真などの倍率は写真の一部に縮尺で明示する。カラー印刷が必要な場合は、その旨を明記する。

(7) 図および写真について、著者が希望した場合もしくは編集委員会が掲載上不適当と認めた場合には、印刷所においてトレース等を行う。費用は実費とする。複雑な化学構造式などもこれに準ずる。

#### 付則

1. 英語での投稿にあたっては、校閲記録を提出する。なお、その場合でも査読審査の結果、英文が不十分と判断された場合、または校閲を受けることが困難な場合には、編集委員会において専門家に校閲を依頼するが、それに要する費用は著者の負担とする。

2. 訂正原稿が期限内に編集委員会に到着しない場合、あるいは著者が査読者の指摘以外に著しく内容を変更した場合に、返送原稿の受領日をもって新しい受付日とすることがある。

3. 初校は原則として著者校正とする。校正に際して、ミスプリント以外の訂正、変更は認めない。

4. 提出された原稿・写真等は返却しない。

#### 本細則の改廃は、委員会の議を経て理事会に報告する。

|    |      |       |        |
|----|------|-------|--------|
| 附則 | 改正施行 | 平成24年 | 12月15日 |
|    | 改正施行 | 平成25年 | 8月22日  |
|    | 改正施行 | 平成26年 | 4月1日   |
|    | 改正施行 | 平成26年 | 11月1日  |
|    | 改正施行 | 平成28年 | 2月1日   |
|    | 改正施行 | 平成30年 | 2月1日   |